

東日本大震災が起きた当時、私は米国ボストンに在住していましたが、一時帰国した二〇一一年五月、被災地では何ができることはないかと思いつてをたどって福島県相馬地域に赴きました。ここでは、復興再生を願って活動する多くの方々との出会いがありました。子育て中のお母さんやお父さん、学校現場で子どもたちのことを懸命に支えている先生方、ボランティアに来ていた医師やスポーツ選手や心理の専門家、中には海外からの方もいました。被災者や支援者という立場を超えて、共に支え合い地域のために行動する姿が見られました。

帰国してから勤務するよう

星槎大学副学長
細田満和子さん



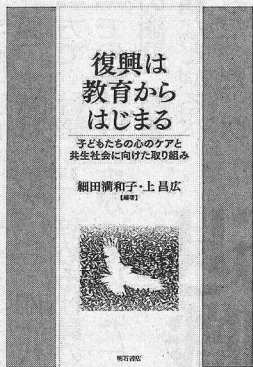
相馬地域での活動一冊に



東北 復興日記

まだまだ

▶▶ 197



になった星槎大学を含む星槎グループは、震災直後に相馬(相馬・双葉地方)特命室を設け、その下に教育環境支援班と医療支援班を置き、子どもたちの心のケアや住民の方々の健康相談に取り組んできました。これまでに教育環境支援班では十九の小中学校と

高校にカウンセラーを派遣し、現在も継続的に子どもたちや保護者、先生方のカウンセリングを行っています。医療支援班は、一般市民向けに放射線説明会を行ったり、仮設住宅などに住んでいらっしゃる方を対象に健康診断を実施したりしてきました。

こうした相馬地域で出会った方々の活動を記し、何人かの方には執筆者になっていただき、「復興は教育からはじめる」子どもたちの心のケアと共生社会に向けた取り組み(明石書店、一四

年)を出版しました。写真。本気で動きたくさんの大人たちとの関わりが、子どもたちを心的外傷後ストレス障害(PTSD)から遠ざけて、心的外傷後成長(PTG)をもたらす可能性を、本書から読み取れると思います。

震災から五年半たった今、相馬地域は多くの課題に直面しながらも、変化を受け入れつつ復興再生に向けての歩みを着実に進めています。現場の声を聴き、その姿を伝える作業を、今後も続けていきたいと思っています。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。